

PINK RIBBON FESTIVAL



乳房再建セミナー

～乳がんを越えて
新しいあなたと出会うために～



PostPet™

乳房を失うことでつらく悲しい気持ちを抱え込んでしまう患者さんは少なくありません。

しかし乳房再建手術を受けることで、多くの患者さんが自分らしさを取り戻しています。

乳がんという病気を越えて、新しい自分に出会うために、

どんな再建方法を選択すればよいのかなど、乳腺外科と形成外科の専門医に

それぞれのお立場から乳房再建の最新情報をお伝えします。

動画配信

2020 年10月15日(木) スタート

視聴方法

ピンクリボンフェスティバル公式サイト内「乳房再建セミナー」ページにて

https://www.pinkribbonfestival.jp/seminar_breast/

協賛 株式会社 カネカ

協力 ジニエブラ

支援 株式会社 メディカルユーアンドエイ

主催 日本対がん協会、朝日新聞社

後援 厚生労働省、東京都、日本医師会、日本看護協会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会、
日本癌治療学会、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

広報協力 ソニーネットワークコミュニケーションズ

乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル

動画①

講演

『乳がん患者さんの QOLを考えた乳癌手術』

講師：小川 朋子 先生（三重大学医学部附属病院 乳腺センター・乳腺外科 教授）



小川 朋子 先生

動画②

講演

『日本における乳房再建のいま』

講師：棚倉 健太 先生（三井記念病院 形成外科・再建外科科長）



棚倉 健太 先生

パネルディスカッション

『乳がんを越えて 新しいあなたと出会うために』

小川 朋子先生（三重大学医学部附属病院 乳腺センター・乳腺外科 教授）

棚倉 健太先生（三井記念病院 形成外科・再建外科科長）

中村 清吾先生（昭和大学医学部乳腺外科教授・日本乳癌学会監事）

小西 宏（日本対がん協会 がん検診研究グループ マネージャー）

動画③



小川 朋子 先生



中村 清吾 先生



棚倉 健太 先生



小西 宏



乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル

講演 乳がん患者さんの QOL を考えた乳癌手術

乳がんは、早期に発見し標準的な治療を受ければ 90% 以上の方が根治できる病気です。そのため、単に病気を治すだけでなく、術後の QOL も考えた手術が重要です。きれいな乳房を作る手術が QOL の向上に役立つと思われますが、「乳房が変形しないように小さく切除して再発」「きれいな乳房を作るために複雑な手術を行い合併症が起こった」では本末転倒であります。私が考える「QOL を考えた乳がん手術」とは、手術を受けた患者さんが、局所再発や合併症に苦しむことなく、術後の乳房に満足して今後の人生を幸せに過ごせる手術です。どの手術方法にもメリットだけでなくデメリットもあります。メリット、デメリットをしっかりと認識し、それぞれの患者さんが幸せに過ごせる手術方法を追求することが QOL を考えた乳がん手術であると思います。本セミナーでは、メリット、デメリットを提示しながら手術方法について紹介します。



小川 朋子 先生

(三重大学医学部附属病院
乳腺センター・乳腺外科 教授)

略歴	1989年	三重大学医学部卒業、 三重大学医学部 第一外科入局
	1990年	済生会松阪総合病院 外科
	1991年	三重大学医学部外科学第一講座大学院入学
	1995年	三重大学医学部外科学第一講座大学院卒業、 山本総合病院外科
	2003年	三重大学医学部肝胆脾・乳腺外科
	2006年 9月～	亀田メディカルセンター乳腺センター部長代理
主な著書	2008年 7月～	三重大学医学部附属病院 乳腺センター・乳腺外科教授
	2017 年	乳房オンコプラスチック・サージャリー2 —症例から学ぶ手術手技— (克誠堂出版) 編集
	2014 年	乳房オンコプラスチック・サージャリー —根治性と整容性を向上させる乳癌手術— (克誠堂出版) 編集

乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル

講演 日本における乳房再建のいま

医学の進歩により多彩な薬物療法が登場し、乳がん患者さんの治療に寄与していますが、それでも手術で摘出することが根治治療の中心を占めています。乳房再建は、乳房を失う手術を受け入れていただくという意味で、乳がん治療の一環としておこなわれています。日本で乳房インプラントによる乳房再建術が公的保険で本格的に承認されたのは2014年であり、わずか6年あまりです。それまで自費で細々と行われていたインプラント再建は、最近では年間6000件を上回り、年間2000件弱おこなわれている自分の組織による再建（自家組織再建）をあわせ、年間8000件の乳房再建が日本では提供されています。乳房全摘等の手術が50000件弱であることから、再建率は16%程度といえます。再建率が半数程度ある施設もある一方で地域格差も大きく、いまだに乳房再建がほとんどおこなわれていない県もあります。インプラントがリコールとなり再建が停止した問題も含め、いまの日本における乳房再建の実像をお伝えしたいと思います。



棚倉 健太 先生

(三井記念病院 形成外科・再建外科科長、
同乳腺センター副センター長)

略歴	2005年	筑波大学医学専門学群 卒業
	2005年	筑波大学附属病院 初期臨床プログラム
	2007年	筑波大学 形成外科医員
	2008年	いわき市立総合磐城共立病院 形成外科 医員
	2009年	筑波大学 形成外科 医員
	2010年	長庚記念医院(台湾) 形成外科 留学
	2011年	がん研究会有明病院 形成外科 医員
	2014年	同 副医長
	2019年	三井記念病院 形成外科 科長
	2020年	同乳腺センター 副センター長

主な著書	2015年	棚倉健太、ティッシュ・エキスパンダー 1. サイズ選択 乳房一次再建術 2015 p65 - 68 澤泉雅之編 日本医事新報社
	2015年	棚倉健太、ティッシュ・エキスパンダー 2. 挿入法 乳房一次再建術 2015 p69 - 82 澤泉雅之編 日本医事新報社
	2015年	棚倉健太、インプラント 3. サイズ選択の際のエコーによる計測の有用性 乳房一次再建術 2015 p106-111 澤泉雅之編 日本医事新報社
	2015年	棚倉健太、澤泉雅之 遺伝性乳癌卵巣癌； 遺伝性乳癌に患者における乳房再建の注意点について 癌の遺伝医療 2015 p214-216 新井正美編 南江堂

乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル

パネルディスカッション

乳がんを越えて新しいあなたと出会うために

乳房再建手術について、乳がん患者さんやご家族の方などから事前にいただいた質問に専門医3名が
お答えします。乳房再建手術について一緒に考えましょう。



小川 朋子 先生

(三重大学医学部附属病院
乳腺センター・乳腺外科 教授)



棚倉 健太 先生

(三井記念病院 形成外科・再建外科科長、
同乳腺センター副センター長)



ファシリテーター

小西 宏

(公益財団法人日本対がん協会
がん検診研究グループ マネジャー)

■プロフィール

関西大学法学部卒。産経新聞社を経て朝日新聞社入社。
広島、福井、大阪本社社会部、東京本社科学部等で原稿、
基礎医学、生殖医療等の取材を担当。
東京本社科学医療部や企画報道部でデスクをし、2008年より
公益財団法人日本対がん協会広報マネジャー。
2016年よりがん検診グループマネジャー。
(東京大学大学院医学系研究科生物統計学分野客員研究員)



中村 清吾 先生

(昭和大学医学部乳腺外科教授・昭和大学病院
プレストセンター長、日本外科学会理事、
日本乳癌学会監事、日本遺伝性乳癌卵巣癌
総合診療制度機構 (JOHBOC) 理事長)

略歴	1982年	千葉大学医学部卒
	同年	聖路加国際病院外科にて研修
	1997年	M.D. アンダーソン癌センターほかにて研修
	2003年	聖路加国際病院外科医長
	2005年	同プレストセンター長
	2010年	昭和大学医学部乳腺外科教授、 同病院プレストセンター長

日本乳癌学会監事、
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会監事、
一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構理事長、
日本乳腺甲状腺超音波医学会 (JABTS) 顧問

主な著書	2012年	『「乳がん」と言われたら・・・』保険同人社
	2008年	『乳がん 正しい治療がわかる本』法研
	2006年	『専門医が答える Q&A 乳がん』主婦の友社
	2004年	『乳癌 MRI 診断アトラス』(編集・執筆) 医学書院
	2004年	『悪性と間違えやすい乳腺の良性病変 (共著・共執) 篠原出版新社 他



『ピンクリボンシンポジウム
ー乳がんの最新治療と心のケアー』
は2020年10月1日(木)より動画配信中！
こちら是非ご覧ください！

▼詳しくはこちら

<https://www.pinkribbonfestival.jp/symposium/>

乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

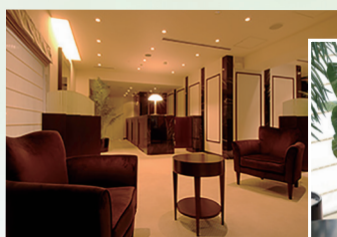
PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル

カネカは、グループ会社のバイオマスターと共に
ピンクリボン活動に取り組んでいます。



株式会社バイオマスターは、
乳房再建を提供するクリニックを
横浜で運営しています。



バイオマスター 乳房再建



【問合せ先】株式会社カネカ
info_pinkribbon@kaneka.co.jp



乳がん検診の大切さを伝え、患者さんを支えていく。

PINK RIBBON FESTIVAL 2020

ピンクリボン フェスティバル